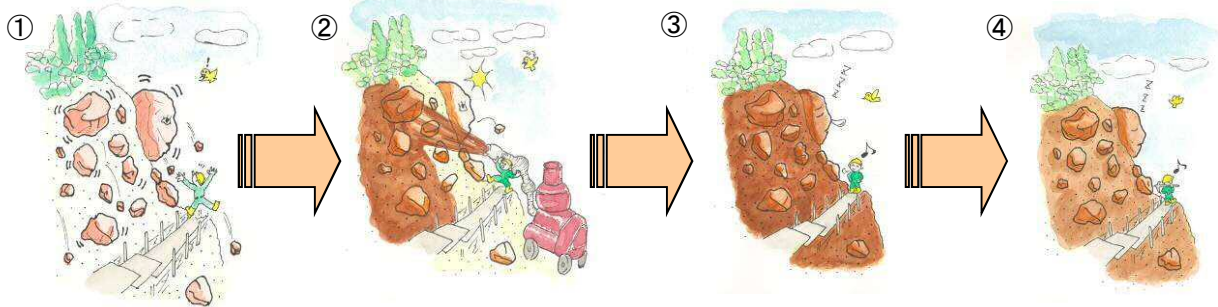


仮設ECOバインド工法

NETIS登録 NO.CB-100057-VE

仮設ECOバインド工法とは？

砂防堰堤造成時の背面等、表面侵食による落石が発生しやすい斜面に対して、本施工時の安全を確保するために、短期的に斜面保護を図る工法です。



- ①砂防堰堤や土留工等では、表面侵食による落石が発生しやすい斜面を背に作業を実施しなければならない場合があります。
- ②このような場合、事前に仮設ECOバインド工法を実施することで、背面の安全性を向上させることが可能です。
- ③これにより背面の侵食は抑制され、本施工を安全に安心して施工できます。

工法のメリット

- ①早期に固化し、細粒土砂の流出を抑制することで、落石の可能性が高い斜面の支持部の保護を図り、安全性を向上することができる。
- ②変状が発生すると亀裂や割れが目視でき、危険予知がしやすくなる。
- ③ECOバインドは、セメントに比べ、アルカリ性が低く、溶出する塩基も少ないことから、アルカリ・塩類障害が発生しにくい。よって植生工（植生基材吹付工）との併用も可能。

ECOバインドとは？

- 強固に固める・・・骨材どうしを強固に固めます。
(1:9配合で土壌硬度25mm以上)
- 環境負荷が少ない・・・①素材はすべて自然由来。
モルタルに比べ ②EC値が低い。③六価クロム不溶出。
④その他環境負荷物質 環境基準値以下。
- 通気・通水性が高い・・・土間材として活用されてきた経緯があることから通気・通水性が高い。
- 凍結・融解に強い・・・100サイクル凍結融解試験・現場暴露試験において劣化は認められない。
- 資源の利活用・・・現地調達できる資材を骨材として利用可能。(要試験)



施工方法

モルタル吹付工と同じ機械で施工可能。

現場配合（配合比＝1：9）



施工プラント



ECOバインド及び骨材（砂）投入



混和剤及び用水投入

留意点

①設計時

- ・著しく流量のある湧水箇所。
- ・表層崩壊の恐れがある斜面。

②施工時

- ・親綱は使用前にチェックする。
- ・法面作業はグリップ付安全帯を使用する。
- ・上下作業は行わない。

③維持管理等

- ・仮設期間中に亀裂や湧水等の変状を確認する。
- ・著しい変状が確認された場合は、別途対策を講じる。

④その他

- ・崩壊の恐れのある斜面については、別途抑止工の検討・導入が必要である。

施工例



施工前



仮設吹付工実施状況



本施工実施状況

問い合わせ先



サンスイ・ナビコ 株式会社

〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町2丁目7番地1号 2F
TEL 03-5623-3600 FAX 03-5623-5554
<http://www.snse.co.jp>

代理店・特約店